

報告書

平成29年11月30日

報告者 市川 篤

件名 金沢市・アンギャンレバン市 国際文化交流事業 滞在制作
派遣期間 平成29年10月18日(水)～11月3日(金)
派遣先 フランス・アンギャンレバン市アートセンター
派遣人員 市川 篤 (ガラス工房スタジオ・プラスG代表・ガラス造形家)
加藤 裕也 (おしがはら工房 設備管理・ガラス作家)

【概要】

ユネスコ創造都市ネットワークに加盟する金沢市とフランス・アンギャンレバン市(以下、アンギャン)、両都市の国際文化交流事業の一環としてアンギャンに滞在し、現地の映像作家ベルトラン・ドゥベック氏(以下、ドゥベック氏)と共同制作を行った。

今回のこのプロジェクトは、表現する素材・分野の違う作家同志のコラボレーションをメインとしながらも、市民に向けたカンファレンス(講演会)の開催や2018年6月に予定されている作品展示・発表会を意識した取り組み等々、実に様々なコンテンツが盛り込まれ、短い期間ながら内容の濃い約2週間となった。

【内容】

《消化した具体的なスケジュール》※別紙1参照

《現地の受け入れ態勢》

アンギャンで私たちを迎え入れてくれたのは、ロラン所長をトップとするアートセンター(以下、CDA)職員の皆さんだった。彼らはこのプロジェクトのために、1つのチームを組んでくれており、それぞれに決まった担当者(次ページ参照)が様々なサポートしてくれた。つねに「困ったことはないか?」と私たちに声がけをしてくれ、その配慮の気持ちが嬉しく、とても快適に日々を重ねていくことが出来た。彼らの親切なおもてなしの心には、深く感謝をしたい。また滞在した宿舎は、CDAの直ぐ裏手に位置し必要な設備を完備しており、非常に至便かつ快適だった。



CDAの建物外観



宿舎外観

○お世話になったアンギャン CDA の職員



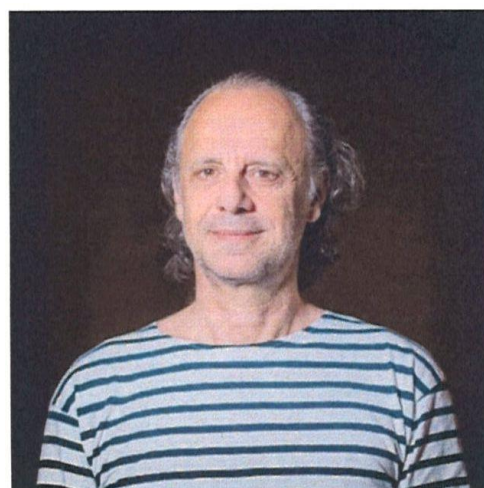
所長 ロラン氏



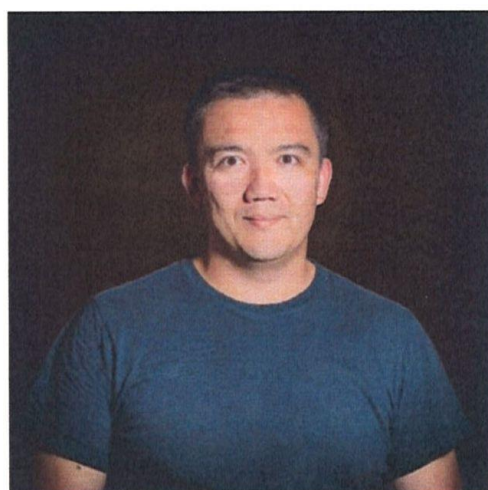
国際交流担当 マリー氏



企画担当 ヴィクトリア氏



ドライバー オリヴィエ氏



宿舎マネージャー クウェンティン氏



映像技術担当 レナルド氏

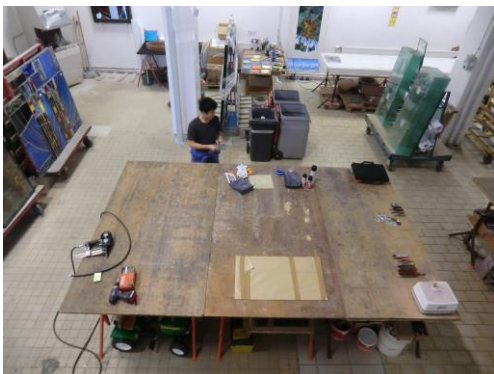
※その他、通訳としてロラン夫人の祥子氏、パリ在住のジュエリー作家小池氏にも大変お世話になった。

《映像作家ベルトラン・ドゥベック氏について》



若干 32 歳で誠実・温厚な人柄のドゥベック氏は、我々の要望を直ぐに映像化してくれるなど、映像分野のクリエイティビティに長けている優秀な作家である。彼は通常、ゲーム機プレイステーション用のソフトを制作するなど、ゲームや映画分野での仕事が多いらしく、アーティストというよりもクリエイターと言った方がフィットする。今回のプロジェクトに彼が抜擢された背景には、映像作家としての能力は当然ながら、十分な語学力を持たない我々への配慮として、彼の高い英語力を活かした通訳としての任務も重要視されていたように感じた。特に利用していたガラス工房での日常語は仏語で行われており、仏語⇔英語の通訳として彼の存在は大きなものがあった。

《ガラス工房について》



今回のプロジェクトで利用させていただいたガラス工房は、ルグリ氏が経営するステンドグラスの工房ファニーグラス。アンギャンから車で約 1 時間弱、森の中の工業団地的なところにあった。社内は小さな体育館ほどの広さで、その中央にある大きな作業台を使用。2 名の社員は非常にフレンドリーかつ協力的で、ルグリ社長の指示もあり、材料・設備は何でも好きなだけ使用が可能であった。

《制作フローチャート》

①両作家による方向性の検討

コンセプトワークとして、金沢は「雨が多い、海が近い、金箔が特産品等」を挙げて、そのあたりを落とし込んだサンプル映像の制作を依頼した。



②テストピースの制作

ガラスのテストピースの出発ポイントは、フランスを含め、ヨーロッパ共通の美意識といえる幾何学的なデザインを活かしつつ、映像効果の面白いものを目指すところからスタートした。
数種類のテストピースを制作。



③映像とガラスピースによる効果検討

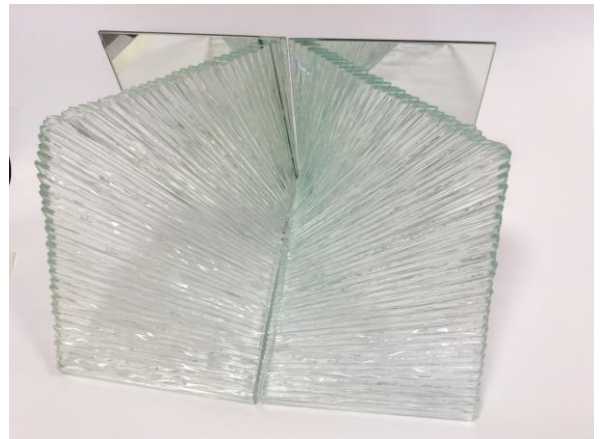
制作したガラスのテストピースにサンプル映像を組み合わせ、どのような視覚効果が得られるかを検討及び検証。そこから得られた結果を基に、成果品の制作に着手した。



④ガラス成果品の制作

異なる映像効果が生み出される
2タイプの成果品を制作した。

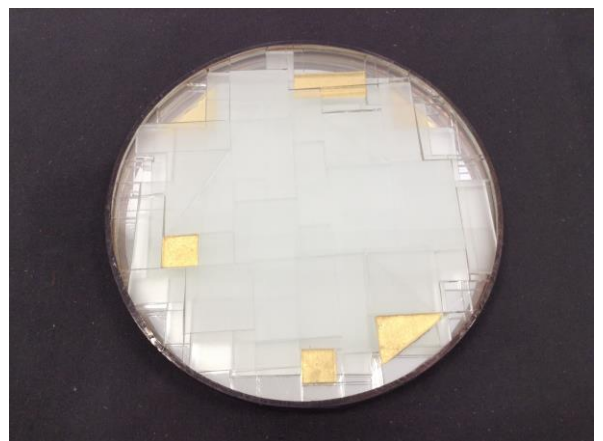
映像がガラスと鏡に乱反射する立体造形的な仕上がりの成果品 A。
2ピースで1セット。



映像がマットで多層的な板ガラスにレイヤーとなって映し出される平面的な成果品 B。

アクセントに金沢金箔を使用。

※この作品の制作作業は主に加藤君が担当。アイデア・デザイン等は市川。



《カンファレンス(講演会)詳細》

開催日：2017年10月26日(木)

開催時間：18:15～19:45

会場：アンギャンレバン市アートセンター・ホール特設会場

来場者数：約100名

スピーカー：ロラン所長、ドゥベック氏、市川、加藤

通訳：ロラン祥子氏、小池美紗子氏

スケジュール：会場集合17:30

↓

ロラン所長室でスピーカー、通訳及びマリー氏出席のもと
カンファレンスの内容説明及び確認。

↓ (カクテルサービス)

カンファレンススタート18:15

↓ (金沢の紹介ビデオが流れる)

ロラン所長による金沢の説明

↓

市川と加藤それぞれが、自己紹介的に今回の事業についてコメント

↓

ロラン所長から市川にいくつかの質問がありコメント

↓

ロラン所長が、2015年に金沢で行われたユネスコ創造都市ネットワーク
加盟都市による総会での話をベースに今回の事業を説明。
その後、映像作家ドゥベック氏にいくつかの質問をし、同氏がコメント。
同じような質問が市川にもありコメント。

↓

来場者からの質疑応答

- ・ 工芸と工業製品の関係をどう思うか？
- ・ 兼六園から何かインスピレーションを受けるか？
- ・ 好きな色は？
- ・ 映し出された映像の中の月をイメージした作品をすごい気に入った。
買いたいのでいくらするのか？他

↓

19:45頃終了し、アルコールと軽食を交え、来場者、出演者で雑談。

↓

21:00頃解散

※現地ではこの講演会のために、PRチラシ(別紙2参照)を作成し配布していた。

○カンファレンス(講演会)の画像



本番前の所長室における打ち合わせ風景



会場風景



本番中の出演者風景



サンプル映像を見る出演者及び来場者

《滞在制作を終えて》

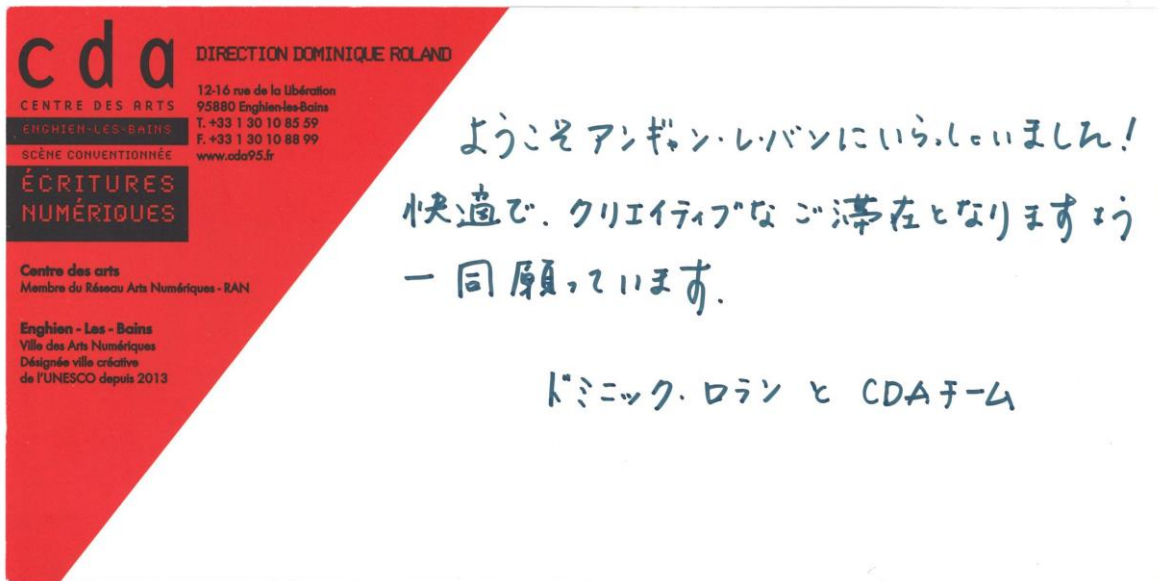
アンギャンレバン市での滞在制作は、平成 28 年度に金沢市で行ったメディアアーティスト・ジョアニー氏との共同制作とは、大きく一味違うものとなった。制作地がフランスという点は言うに及ばず、共同制作の映像作家が変わった点、アシスタントが同行した点、こちらがイニシアチブを執って制作を進めていく点など、実に新鮮な思いで毎日を過ごした。しかし今回のプロジェクトの根底にあるのは、実は第 1 回目の共同制作の経験であった。あの経験があったからこそ、時間や作業環境・設備等に様々な制約があっても、少ない迷いで前に進めたように思う。そういう意味では、前回と今回のプロジェクトは別々の機会となったが確実につながっていた。

国を超え、都市を超え、言葉を超えたところで、ものづくりをする者同志が心を通わせコラボレーションをする。これこそが真の交流であり、両都市間の橋渡しという意味でも、ある程度の成果は出せたのではないかと考えている。

私が今回のミッションを通して最も感じたのは、人の温かさである。笑顔で迎えてくれた CDA 職員の優しさ、観光で訪れたパリで受けた見知らぬパリジャンたちの親切心、そして渡仏に関して金沢市役所の皆さまからいただいたご厚情など、全ての関係者からいただいた温かい気持ちに、この場を借りて心から感謝とお礼を申し上げたい。

市川 篤

○アンギャンの宿舎到着時、部屋に置いてあったウェルカムカードの画像



※CDA 所長夫人ロラン祥子氏が書いたと思われる。

○関係者との記念写真(ガラス工房にて)



Merci à tous ! (みなさん、ありがとうございました！)